

### 1 自己評価及び第三者評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2890800226		
法人名	株式会社ファイブシーズヘルスケア		
事業所名	まんてん堂グループホームたるみ中道		
所在地	神戸市垂水区中道6-1-8		
自己評価作成日	平成30年 9月14日	評価結果市町村受理日	平成31年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成30年9月27日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

法人全体の理念である「自分の親に受けさせたい介護」「自分自身が受けたいと思える介護」「子供たちに継承してもらえる施設」という3つの理念を、日々意識しながら職務にあたるよう、取り組んでいる。  
 介護度が高く医療ニーズも多いことから、医療やご家族様とも連携をとって、ご本人、ご家族とともに安心して生活して頂ける支援を心がけている。ホーム全体の行事にはご家族様にもご案内を出し、多数参加をいただいている。全介助の方も多いが、垂水区内の同じ法人で連携をし情報交換や公用車を借り、いろいろな方法で外出するようにしている。施設内では体操や音楽療法などを取り入れながらレクリエーションにも工夫している。今期は個別支援にも力を入れている。ご利用者の笑顔を少しでも多く引き出すことで、職員にとってのやりがいを感じ、働きやすい環境が作れるよう、研修やミーティングを開催し意見や改善点を検討しながら職務に当たっている。

**【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開設後5年目に入り、フリーマーケットでの買い物など地域住民との交流が増えつつある。運営推進会議には毎回5名前後の家族が参加し、家族代表が議長を務めている。家族の意見を汲み、事業所新聞に職員の自己紹介記事を順番に掲載している。利用者の高齢化と重度化が進むなか、浴室へのリフト装置の取り付け、ベッド移乗用のスライドボードとシートの購入など、利用者の安全と職員の負担軽減にも力を入れている。研修で学んだユマニチュード手法を実践し、職員がその効果を実感することで利用者とのコミュニケーションが深まりつつある。朝礼で、時には利用者も一緒になって「やる気！元気！中道GO！」とキャッチフレーズを唱和して、笑顔とともに一日が始まる。今後とも、リビングに笑顔が溢れる事業所であるよう、期待したい。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ中道

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「やる気！元気！中道！」の独自のキャッチフレーズを毎朝かけ合うことで、その日の業務への取り組む力となっている。	法人共通の理念を職員の名札の裏に印刷して周知している。職員から公募して決めた事業所のキャッチフレーズをリビングに貼りだし、毎朝、時には利用者も一緒に、号令を掛ける形で唱和してから、その日の業務に入っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区のボランティアセンターより定期的に来て頂いたり、自治会長様やご近所の方の情報をもらい、地域へのイベントにも参加する事により地域の方々との交流も深まっている。	近くの公園で開かれるフリーマーケットで買い物などをしながら、地域住民と交流している。バンド演奏、オカリナ、大正琴など、地域から多彩なボランティアが来訪する。近隣の保育園や中学生との触れ合いについては未だ実現していないが、今後ともトライしたいと管理者は考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様をお連れし近隣のお散歩をする際、職員が率先して挨拶を行い、近隣の方とのコミュニケーションを図る様心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では良いことも悪いことも隠さずに伝えることを心がけている。当日欠席されるご家族には、案内時にご意見欄を設け意見をいただけるようにしている。また広報誌を作成しご様子をわかりやすく伝えるようにしている。	隔月に開催しており、毎回5名前後の家族が参加し、家族代表が議長を務めている。管理者と各ユニットリーダーから、利用者の特記事項を匿名で報告しており、家族からも積極的な発言がある。市への報告書式の他に詳細な議事録を作成し、運営推進会議参加者と全家族に送っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には毎回、地域包括支援センターより参加していただき、ホームの運営についてのご意見や提案など頂いている。また、今期は地域支援事業として、小学校内でのイベントにも参加させていただきよう調整している。	法人本部を軸にして、市と連携している。包括から地域ケア会議の案内があり、区内の事業所が持ち回りの交代で参加しながら、情報共有している。地域の事業所連絡会は、半年ごとの管理者部会と3か月ごとのリーダー部会があり、双方に参加して意見交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化検討委員会を発足し、研修を全員が受けている。また、身体拘束に関する意識を高められるよう話し合う場であるフロアMTGにおいては意見を出し合い意識して職務にあたっている。日常では閉塞感を感じないように、玄関先の駐車スペースで日向ぼっこや夕涼みをしていただいたり、裏庭で茶話会などしている。	法人として、身体拘束適正化のための指針の文書を作成した。管理者、計画作成担当者、ユニットリーダー、介護職員が参加した適正化委員会が、少なくとも3か月ごとに検討会を開いている。道路に面した玄関は施錠しているが、1階ユニット入口は職員在席時に開錠しており、2階ユニット入口は階段がある為施錠している。利用者の動きに注意し、外出希望の時は職員が付き添っている。	職員の目が届きやすい時間帯だけでも、玄関を施錠しない工夫をされたらどうだろうか。

# 自己評価および第三者評価結果

## まんてん堂グループホームたるみ中道

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待研修を年2回開催している。また各フロアに「接遇大臣」を任命し、不適切ケアと感じたら指摘する担当を決め、日々意識するように心がけている。管理者・計画作成・フロアリーダーにも報告・相談しやすい環境でいれるよう個別面談も行っている。	全職員が「接遇大臣」を毎月交代で務め、注意したり注意されたりする中で、接遇への意識が強くなっている。特に言葉遣い、声の大きさや口調に注意を払っており、2人だけの場で注意したり、フロアミーティングの場で、名指しを避けながら注意を喚起するようにしている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見を受けておられる入居者様がおり、担当弁護士が面会に来られた事もあり、理解を深めるようにしている。	成年後見制度に関する概説書を準備しており、契約時に説明している。必要とする利用者や家族には専門家につなげていく体制である。成年後見制度を活用している利用者があるが、職員の知識レベルは高いとは言えない。	地域包括に依頼して、研修をされたらどうだろうか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前よりご本人や家族様ともできるだけ見学や面談の時間をいただき、ここでの生活がイメージしやすいように伝えている。さらに契約締結時には細かく説明を行い、契約書はもちろん、他の承諾書なども書面で取り交わしている。	説明時に質問が多いのは、外出や面会時間の制限の有無、看取りについてなどであるが、それぞれ丁寧に説明している。「重度化した場合の対応に係る指針」で、事業所として出来ることと出来ないことを説明し、納得を得て同意書ももらっている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議においてはご家族様からたくさんの発言をいただいている。普段伝えにくい思いもこの場を借りて発言・傾聴ができています。また日ごろのご様子は管理者だけでなく、職員からも積極的に話かけたりメールで報告や相談をするなど、心がけている。	家族からは、運営推進会議や来訪時に意見を聴いている。利用者の情報を職員間で継続的に共有できるようにと、「私の姿と気持ちシート」を新たに作成した。催し物の案内をキーパーソン以外の家族にも連絡したり、全職員を写真入りで紹介するなど反映していることは多い。希望する家族には、職員が事業所の携帯端末を使ってメールで報告をしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体や各フロアでミーティングを定期的に行ったり個別面談で意見を聞く機会を設けている。委員会を設定し、恒例行事ややってみたい活動やイベントなど職員が自発的に職務に当たれるよう心がけている。	委員会として、レクリエーション、環境整備、防火・防犯などがあり、職員はそれらの活動の中や毎月のミーティングの中で意見を出し合っている。利用者のバイタルサイン、排泄、水分補給、摂食状況などの24時間の記録の一覧表、「私の姿と気持ちシート」など、新しく策定した書式には職員の意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	従業員評価制度を設けており、意欲を持って業務にあたるようインセンティブを提供している。また、労働時間の見直しや負担が分散できるよう職員の意見を取り入れながら改善にも積極的に取り組んでいる。		

# 自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ中道

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は法人内外で参加し、情報を提供している。また、検証しながら研修をすることで、福祉用具やオムツの当て方などは全員が有効に使いこなせるまでになった。今年の春、浴室にリフトが設置されたが、状況や時間配分や注意点など職員間で話し合い事故なく活用している。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所に研修などに行くことや他法人の同区内の管理者会やリーダー会などに参加するなど、勉強会や交流の場を持ち、自身の向上に役立てている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約締結前に家族様や各機関からの情報をできるだけ多く収集することを心がけている。ご本人の訴えや表情等を汲み取り、各勤務帯による申し送をし本人との関係づくりに努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約締結前よりご家族様からのヒアリングをしっかりと行い、入居後には本人のご様子を伝えながらご家族様の不安なことや要望を聞きながら関係づくりに努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に使っていたサービスや情報、体の状況などをアセスメントしながら、本人やご家族のご要望を確認しながら、対応にあたっている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が主体となれる支援を心がけ、ご本人の能力に応じて、日常的な家事や得意とされることを活用した役割を持っていただくようにしている。できる事は見守りしながらご自身でしていただき、信頼・安心していただけるようにしている。		

# 自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ中道

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様にも行事に積極的に参加頂くよう働きかけている。変わったご様子があれば、こまめに連絡をしたり、定期的にメールを送るなどして、関係を築いている。また、いつでも来ていただきやすいようにお声かけを心がけている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人やご家族の面会は積極的に受け入れられている。個別支援を取り入れ、なじみの場所へ出かけたりするよう努めている。	隔月に発行している事業所新聞で、日常の全利用者のスナップ写真を掲載し、利用者ごとのお便りで近況を報告して、家族との関係性の継続を支援している。母の日、父の日、敬老会などを開催することによって、ユニットを越えた利用者同士の関係性が密になるように支援している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	多数で行うレクリエーションや個々にできるレクリエーションや体操・しりとりなど、1階と2階の入居者様が違和感なく顔見知りになれる様、職員も間に入りコミュニケーションを図るよう工夫している。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去や他の理由によるご退去によりご利用が終了した後も、運営推進会議に参加して頂き、ご意見を頂戴したことがある。行事のご案内をしたり、道でお会いした場合は声をかけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「私の気持ちシート」を作成し、体のことやご要望、家族の気持ち、職員の気持ちを入れながら、本人の思いに寄り添える暮らしを目指している。	コミュニケーションが難しかったり発語が困難な利用者が数名ある。利用者へのアプローチの仕方など、ユマニチュードの研修で学んだことを実践している。反応が比較的明確な利用者をモデルにして実践し、コミュニケーションをとる方法として良い結果が出ており、職員の自信につながっている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前の面談において、現在の生活状況や、これまでの生活歴を詳しく聞き取り、馴染みの関係、生活環境等の把握に努めている。またご入居後も生活歴を聞きだせるようご家族やご友人とコミュニケーションを図っている。		

# 自己評価および第三者評価結果

## まんてん堂グループホームたるみ中道

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の様子、体調の変化を観察、記録している。申し送りによって職員間で情報の共有をしている。また、医師、看護師とも情報の共有ができるような連携をしている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント・モニタリングをスタッフ全員で行い、特に居室担当者は計画作成と連携を密に図りケアプランの作成を行っている。計画書を作成する際には家族の意向や要望なども確認している。	職員は、ユニット内の全利用者のケアを担当している。利用者ごとの実施すべきサービス内容について毎日モニタリングできる書式となっており、半年ごとの担当者会議で計画作成担当者がモニタリングをまとめている。半年ごとに作成する計画の案を、家族の来訪時や電話で説明して希望を聴いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートに日々の様子や気づきを記録し、出勤時に確認するようにしている。様子の変化や気づきは計画作成担当者に報告し、以後のケアの内容を検討するよう、情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診で対応が難しい場合の専門科の受診は、ご家族と相談し送迎や付き添いを行っている。個別にご本人に必要な物品があれば、一緒に外出し立替購入をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所の方が、花の手入れをしてくださったり、近隣の公園で催し物があれば情報をくださり参加したり、自治会長さんよりいただく情報で行事と一緒に出かけたりしている。台風の前日はご近所の方が看板が飛ばないように手伝ってくれたりと協力していただいている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医については、事業所の提携医療機関のほか、これまでのかかりつけ医を利用して頂くことも可能としている。ご本人の希望する医療機関を受診することを前提としている。	本人の希望する主治医の受診を基本としているが、契約時に家族の意向を聞きほとんどの利用者は、事業所の協力医療機関の往診を受けている。歯科医の往診や不定期であるが皮膚科や眼科の往診もあり、訪問看護師が週に2回来訪し医療連携体制は整っている。	

# 自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ中道

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師は週に2回事業所を訪問し、ご入居者の健康管理、健康チェックを行っている。訪問時間外では判断に迷う時は電話で相談でき、緊急時最短でかけつけてくれる体制がある。それ以外にはFAXにて報告し連携をとっている。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様からの情報や病院内の地域連携室を通して、ご本人の状態の把握に努めている。また、退院前に病院関係者とカンファレンスを行うとともに、それに基づいたミーティングを施設職員間で実施し、スムーズな退院支援を行っている。	入院時は頻繁に医療機関と情報交換し連携を密にし、利用者が安心して治療に専念できるよう職員が見舞っている。退院前カンファレンスに同席し状態を把握し、早期に退院できるよう受け入れ体制を整えている。今夏、熱中症にかかった利用者があったが、ホーム内で点滴にて対応した。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応に係る指針」をもとに事業所としてできないことを段階的に説明し、往診医や訪問看護師、ご家族との連携をとりながら、終末期の方向性や選択を支援している。職員や家族に訪問看護よりターミナル研修を行い望む終末期が迎えられよう取り組んでいる。	契約時には、「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、事業所での看取りも可能である事を伝え同意書ももらっている。ここ2年間看取りはないが、24時間対応の訪問看護師との連携を取っている。看取り期には家族も付き添いが出来るよう配慮し、安心して最期を迎えられる体制を整え研修を行っている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に、かかりつけ医及び訪問看護に連絡を入れ相談し対応できる体制ができている。必要時は往診の体制もある。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時に備えるため、避難訓練を年に2回実施している。その内、1回は日中、もう1回は夜間想定の実践を行っている。今期は台風が多く停電なども実際になったため、水害想定の実践訓練を兼ねて行った。	火災発生時の避難訓練は、夜間想定も含め年に2回実施している。消防署への通報システムも体験し消火器使用方法の訓練も実施している。非常用の食料や水等は1日分のみ備蓄している。9月に台風による停電があり、暗闇で必要物品の不足を実感した事により、必要品を整えたところである。消防署の立ち合いと、自治会の訓練参加の呼び掛けはしているが実現していない。	防災備蓄品目と量を再検討されてはいいかがか。消防署や自治会への訓練参加の呼びかけは、引き続き行ってほしい。

自己評価および第三者評価結果

まんでん堂グループホームたるみ中道

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者と職員は家族的な関係でありながらも家族ではないことを自覚し、人生の先輩であることを自覚するよう心がけている。また、言葉の乱れや声かけについても職員同士が指摘し合える環境づくりに努めている。	利用者の呼び方は名字にさん付け、夫婦の場合は下の名前と呼んでいる。職員に「接遇大臣」を任命し、声掛けの気になる職員がいる時は、イエローカードで注意喚起を促す等、言葉かけを意識している。対応時は対面でゆっくり丁寧に話しかけるユマニチュードを意識し、本人の意思が確認できるよう配慮している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ユマニチュードを研修で取り入れよりスムーズにコミュニケーションが取れるよう心がけている。また、日常動作であったり一緒に外出する中で、残存能力が引き出せるよう意識して関わっている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コミュニケーションの取れる方は、ご本人の「今どうしたいか」の意向を尊重し、可能な限りご本人のペースに合わせて対応している。コミュニケーションの難しい方は表情や体調によりその日の過ごし方を柔軟に対応している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は季節感に合わせたものをご用意頂くようご家族に依頼している。外出する際、特に女性の入居者様にはおしゃれ着で出かけていただくよう意識して支援している。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けを一緒に行っている。食べ物にアレルギーがある場合は代替メニューをご用意している。月に2日は、入居者様のご希望のものや季節を感じていただける献立にし、入居者様主導になって調理する日を設けている。	日頃から買い物や下ごしらえ等、利用者と一緒に調理することを心掛け、日常的に盛り付けや食器拭き、後片付け等多くの利用者が調理に参加している。月に2回の食事レクのメニューは、利用者から希望を聞き季節感ある食材を取り入れ、利用者中心の調理となっている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居面談時の食事アセスメントで、食生活の習慣を把握している。また、食事量、水分量はそのつど記録し、少ない場合は十分な量の摂取を促すようにしている。		



# 自己評価および第三者評価結果

## まんてん堂グループホームたるみ中道

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕に口腔ケアを実施している。また、ご入居の半数の方が週に1回歯科往診を実施している。		
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツのメーカーからの研修により、より薄く小さくする取り組みを行っている。また、オムツからリハビリパンツや夜間のパット交換のタイミングの見直しを検討し、スキントラブルなく安眠に向けた支援も行っている。	入所時にリハビリパンツだった利用者が、職員がチェック表を確認しトイレ誘導を繰り返す内に、トイレでの排泄が出来るようになり、布パンツになった利用者がある。立位が保てないオムツ使用者があるが、できるだけ本人に負担の少ないものを検討し使用している。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトやオリゴ糖を摂取していただいたり、散歩するなど運動も勧めている。人によっては2～3日以上排便がない場合は、かかりつけ医の指示の下で下剤を使用してコントロールしている。水分摂取量にも気を配り、不十分な場合は促すように努めている。		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体の状態に合わせ、リフトで浴槽につかれ方が増えた。お湯にゆったりとつかれることで、体が温まり、よりリラックスできることで、今まで入浴時拒否のあった方がなくなった。入浴のタイミングは可能な限りご本人のペースに合わせ順番で声かけをしている。	週に2回の入浴を基本としているが、強い拒否があったりや体調不良時は、日時を変更し無理強いない方法で入浴を支援している。疲れや寒さから入浴の拒否がよくあったが、リフトの導入により利用者の負担軽減や温まるようになり、拒否をする利用者がほとんどなくなった。秋には近くの温泉や足湯に行く予定である。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居面談時の睡眠アセスメントで、習慣を把握し、個々に応じた支援をしている。夜間巡回ですぐに目を覚まされてしまう方は、スキントラブルに配慮しながらパットの種類を変え、安眠を妨げずに休んでいただけるよう、検討している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を個人別に分けた上で1冊にまとめ、薬の性質についてすぐに確認できるようにしている。また不明な点や飲み込みが困難であれば、提携薬局に相談ができ、形状を変えてくれるなど、柔軟に対応してくれる。		

# 自己評価および第三者評価結果

## まんてん堂グループホームたるみ中道

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の得意なことを理解し、役割を担って頂いている。また個別の趣味を把握し、趣味に取り組んで頂けるような環境を作っている。春から個別支援にも取り組み、個々の生活がより充実できるよう支援している。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別支援では、アジュール舞子での散歩、百貨店での買い物、回転すし、家族と喫茶店へ行っていただいたり、ご希望に沿って外出できるよう心がけている。日常的には職員と散歩や買い物にも行っている。	春の花見はフロア毎に午前午後に分かれ、多くの利用者の参加があった。近くの公園や海沿いへの散歩、食材の買い物は利用者も同行する。個人が希望する買い物は、担当職員が付き添い出掛けている。外での催し物を事前に家族に伝え、現地で待ち合わせ一緒に楽しむ事もある。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や買い物へ出かける場合は基本的には立替払いとしている。ご希望があれば、お金の直接的なやり取りを入居者さまにもしていただけるよう、財布をお預かりにしている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	字が書ける方は毎年、ご利用者からご家族への年賀状を書いていただいている。電話のやり取りについては要望に応じてかけたり取り次いだり支援している。個人で携帯電話を持ち家族と連絡されている方もおられる。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝はカーテンを開ける、夜は閉める。天気の良い日は玄関前で全員で日光浴をする。温湿度計を設置し、快適に過ごせるよう空調に配慮する。フロアの壁には、ご利用者と一緒に作ったものを貼り付けたり、季節の応じて、壁の飾りを変えたり、飾りを置くなど四季を感じていただける工夫をしている。	居室前の廊下に面したリビングに、対面のキッチンカウンターがあり、中には利用者が自由に入りしている。壁には季節の行事写真が展示されている。3か所あるトイレの1つは浴室に繋がっている。昼食後は自室で午睡の人やリビングで過ごす人等、思い思いの場所で過ごしている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの一角にソファを設置し、リビングの中心から少し離れた所で自由にお過ごし頂けるようになってきている。一人用のくつろげる椅子で過される方もおられる。		

# 自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ中道

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、ご家族様の協力にて壁の絵を変えられたり、馴染の家具や仏壇を置かれている。また、温湿度計を設置して、快適な空間作りに努めている。	居室には備え付けのクローゼットがあり、利用者の状態や身体に合ったベッドが設置されている。各自が持ち込んでいるタンスや籐のソファ、仏壇を置いている利用者もあり、落ち着いた雰囲気でも過ごしている。リビングや各居室には温湿度計が設置され、快適に過ごす為の配慮がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内にトイレがない為、トイレや浴室がわかりやすいように表示している。また、キッチン内は自由に出入りして頂けるようにしている。		